

会 議 記 録

政策企画局 まちづくり協働課

開催日	平成 22 年 8 月 24 日(火)	開催時刻	19 時 00 分から 21 時 30 分
会議名	上田西部地域協議会(平成 22 年度第 5 回)		
出席者	中島会長、宮尾副会長、小林委員、小宮山委員、佐藤修一委員、佐藤祥一委員、鈴木委員、関委員、高橋委員、竹内委員、竹村委員、原委員、布施委員、増田委員、宮下委員、森泉委員、山崎委員、渡辺委員 (欠席者) 廣田委員、松本委員 (事務局) 山崎まちづくり協働課地域振興政策幹、 林まちづくり協働課課長補佐、堀内まちづくり協働課主査 (説明者) 岡田政策企画課長、近藤政策企画課課長補佐		
会議次第			
1 開会(山崎まちづくり協働課地域振興政策幹)			
2 会長あいさつ 本日は市からの報告事項がある。また、西部地区の今までの課題について討議したので、しっかり協議を進めてまいりたい。よろしくお願いいたします。			
3 会議事項			
(1) 第一次上田市総合計画「地域まちづくり方針」の見直しのについて 資料：「第一次上田市総合計画『地域まちづくり方針』の見直しについて」 1. 第一次上田市総合計画の構成(別紙：第一次上田市総合計画概要版 参照) 2. 地域まちづくり方針の検証と見直しについて 3. 地域別懇談会の開催について 4. 今後のスケジュールについて より政策企画課から説明			
(2) 意見書の回答について 前回の回答書に対する意見について 事務局より説明 (事務局) 第 4 回上田市西部地域協議会において、上田中央地域と上田西部地域の共通する「歴史的資源である北国街道を保全活用したまちづくりの提言について」の回答書をお出ししたわけだが、この取り扱いについて、先日中島会長と担当課で協議した。先の回答に一部補足説明をさせていただき、ご理解をいただくとともに、今後の具体的な取り組みにむけた協議等を進めていきたいと思うので、よろしくお願			

いしたい。

(1) 北国街道沿いの歴史的資源についての学術調査と評価の実施については、対象物を絞り込み、歴史的資源として学術調査と評価をするというものだ。基礎的な調査をするに当たっては、地元の皆様のご理解ご協力が必要であり、具体的な手順について地域協議会もしくは分科会等で対応をお願いしていくことになると思う。改めて関与させていただく。その節はよろしくをお願いしたい。

(2) 歴史的資源保全のための市独自の新たな制度の制定については、歴史的に貴重なものと認識するが、まちづくりに歴史的資源をどのように生かしていくか、より具体的な検討が必要だ。どの地域にも一定の歴史があり、線引きがたいへん難しく、郷土の愛着・誇りだけでは市有財産への指定は不可能である。また、地元住民の関係者の合意形成も不可欠である。現制度をとっても文化財指定・景観法条例に基づく保全制度はあるが、それを超えての個人所有財産への市の独自の新たな制度の制定は現時点では難しい。

(4) 市民が主体となり行政が支援するまちづくりの推進については、まず、出来ることからはじめ、広げていくことが大切だ。案内マップの作成、街道沿いの街道表示板の設置など、地域を知ってもらうことは地域まちづくりには必要なことだ。具体的な取り組みを随時進めていただき、市の関係課も実施にあたり協力できる部分は積極的に関わっていきたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

【主な質疑等】

(委員) 会長から再度お願いをして、それに対しての回答を読んでいただいたが、そういうものは文章でいただけないか。聞いただけでは忘れてしまう。

(会長) 私も文章を読み上げただけでは分かりにくいと思う。だが回答書を1回出すとそれを修正してもう一度出すことが難しい。中央地域協議会は、同じ内容の説明で了解しているとお聞きしている。現実の問題としては、今回の回答書の内容を明確にさせていただき、方向性を見出すことがいいだろう。保存の問題だが、個人の建物を、行政や地域協議会が保存して欲しいと要望することは不可能だ。今後進めていく中で、実際に維持されていくかどうかとなるとかなり難しい。こちらから提案しても、保存の状態に持っていける確率は少ない。西部地区で出来ることは、現在ある遺産についてマップ等を作成し、残していこうという市民理解を得ていくことだと思う。個人が改修したいということになれば、保存としての規制は出来ない。上田市では、観光資源として生かせるような状態に、今の段階では考えていない。

こちらから提案するときには今後、具体的な提案をしないと回答自身もぼやけてしまう。

(委員) 保存については所有者の個人的な考え方であり、地域や個人が残そうという努力をしようとしていても、市としてはそれに関与しないということか。

(会長) 地域の住民と、資産を持っている人、両者が話し合いの中で残したい、と思いそれを市に提案をして、基準の中で合致すれば保全制度が成立する。それ以外のものについては、今の段階では出来ないと考えている。

(委員) 貴重な建物で、保存に苦勞されている方はどうなのか。

(委員) 保存の気持ちはあるが、どんどん劣化していく。価値があるのか、概ね古いだけなのか、それがわからない。

(会長) 前回の会議で歴史的な資産について、各住民・地域から提案のあったものに対して調査をするという回答だった。地域と行政の両方で調べ上げていくという形に持っていく。価値があるか無いかはそのときの判断になる。

(委員) 総合計画の中のまちづくり方針で、西部地域は一番に「歴史的遺産の積極的な活用による地域の振興」を上げた。実際その話が出てきたら、それは住人と地域で話し合って下さいというのではおかしくはないか。まちづくり方針に添ってこの意見は出てきているだろうに、どのように考えているのか。

(事務局) 具体的な提言 4 に謳われているように、お出しいただきそれについては具体的な取組を進めていただき、その都度年間計画を練って進めていきたいという回答をしている。出来ることからはじめ、計画したものを随時取り入れていく。提案いただいた保全については、現時点では出来ないという回答になっている。出来ないというだけでなく、現行制度の検討についてもさせていただきたいと回答している。まず、調査が必要ではないか。現行の制度の中で市の指定になれば、保存の道が出てくる。ただ、現時点では市民の皆様に通ずる価値・活用方法を具体的に出していかないと、もう一步踏み込んだところにいけないのが現状だ。

(委員) 段取りはいつするのか、いつまでに何をするのかははっきり出てこないで、このような話になってしまう。

(事務局) 全戸調査は出来ないのでは絞込みをしたい。そこで具体的に詰める作業に入ってくる。絞込みの仕方はどうするかという部分から協議をしたいということだ。分科会で行うのか、地域協議会全体で行うのか、地元の方々も入っていただき、別の組織でお話をしたほうがいいのか。その部分も話し合いで出していきたい。

(会長) 西部地域として提案をしてきた以上は、進めないわけにはいかない。市から回答されたことを前提にして協議し、できることを進めていく。この問題は西部地区の課題なので、どのように進めていくかは今後決めていきたい。

(3) 8月2日(月)に発生した豪雨災害について

資料:「8月2日(月)に発生した豪雨災害に伴う被害状況について」

1. 降雨等の状況

2. 被害状況

「8月2日豪雨災害による被災者の皆さまへ(災害支援制度一覧)」

【主な質疑等】

(委員) 神科の土地の利用が変わってきたため、産業道路の下を通ってくる矢出沢川を変えない限り、被害は今後も出ると思う。市の対応は良かった。消防団の方、消防署の方、市の職員の方、皆さんが一生懸命やっていたと思う。

(委員) 支援一覧はすでに配ってあるのか。

(事務局) 被災者のお宅にはお配りしている。

(委員) 上田市にはこれまであまり災害が無かった。もっと体制作りをした方がいいと思った。

(会長) 体制が無いということはない。消防団や自治会があるので、地区の災害に対応している。それでも足りない場合は地区の方たちを要請して応援する。これは自治会が主体になって行っている。

(委員) 河川は県の管轄になるので、その部分は放置されていたと聞いた。市と県の関係や矢出沢川の問題など、今回改善すべき場所は改善される方向になったのか。

(事務局) 直接の原因はいろいろあるが、一番の原因は雨量が多かったということだ。100年に一度起こる災害でも問題のない構造物を造っても、構造物自体が100年持たないのでどうなのか。お金もかかるので、難しいところもある。地元と改修の協議をさせていただきながらでないと進めない。災害復旧なので早急に進めなくてはならない。

(委員) 27項目の中で検討していただきたいが、高齢者の介護を自宅でやっている方がかなりいると思う。敬老園や市で話し合っていていただき、ショートステイや、一時預かりを行うような、時代にあったサービスも入れていただきたい。このようなものを自治会の回覧板でまわしていただきたいと思う。

(会長) 情報の提供も大事なことなので、どのような形で市民の方に知らせるか、市としても検討していただきたい。

(4) 今後の進め方について

「太郎山山麓トレッキングコースについて」会長より説明

【主な質疑等】

(委員) 実際に見させていただいた。山に人が入っていくのは結構だが、既存にある昔の山林作業道や山の道を利用した方が簡単ではないか。また、造った後、誰がこれを補修するのか、大きな問題があると思う。

(委員) 森林浴を兼ねて、山の空気を感じながら歩くにはいいと思うが、地域協議会で作るのどうか。上田公園は管理人がいて整備しているので、すぐに修復している。

- (委員) 会長さんにお聞きしたいが、太郎山山麓トレッキングコース整備推進委員会という会が発足していると思うが、そちらの状況はどのようなになっているか。
- (会長) 自治会に前会長が話をされているが、まだ具体的な活動はしていない。
- (委員) 22年2月25日付けで太郎山山麓トレッキングコース整備推進委員会に、自治会から山の好きな登山家を一人推薦している。その後の活動状況はわからない。各委員が集まったところで初会議を開きたいという主旨のものはいただいているようだ。
- (委員) 前地域協議会会長から、トレッキングコースは検討して行って欲しいとの引き継ぎ事項がある。下塩尻は山林の仕事もやっている。マツタケ山の製造や山の整備を行っているが、このコースができれば山林の仕事にもいい。
- (委員) トレッキングコースを実現するに当たり、自治会との連携は欠かせない。自治会の中の山林が関わっていることは間違いない。合同協議をしていかないと話は進まないのではないかと。
- (委員) 現在自治会長をやっているが、今でも自治会の事業の中の3分の1は山林に關することだ。その上トレッキングコースを整備しろということになると、物理的に出来ない。年間1~2回、全地区の皆さんにご協力いただき、山の道路の作業をお願いするが、60名くらいの参加しかなく、その大半が公民館の役員や山林の委員、土木委員ということで出ている。
- (会長) 提案しているのはあくまでも地域協議会だ。しかし地域協議会が実行するのは不可能だ。応援部隊として自治会にお願いして実現していこうというのが、前会長の考え方だと思う。その形で進めるのか、あくまでも地域協議会として提案をし、市に投げかけて予算も人も手立てし、市で発注する。この2つの方法しかない。
- (委員) 自治会・自治連の皆さんの意見が重要に反映されると思う。皆さんのそれぞれの団体に持ち帰っていただき、トレッキングコースのことを話し合ってもらうことは重要だと思う。
- (委員) 自治会長も決して反対ではないと思う。行政でも前向きに管理してもらい、自治会の負担を少なくしていただく方向で、地域協議会は賛成という立場で是非動いていただきたい。
- (会長) 皆さんが賛成であればそちらの方向に進める。地域協議会として方向付けをしたいと思う。
- (委員) 意見としては賛成だ。
- (委員) どう進めていくのかについても、地域協議会だけでなく、推進委員の皆さんのお話も聞いて、お互いに足並みをそろえていくのも大事だと思う。
- (会長) 自治会のメンバーの方とお話をし、今日の地域協議会の皆さんのご意見とあわせてどう進めていくか検討したい。推進委員の皆さんと会合を持ち、次回の地域協議会で皆さんにお諮りしたい。

(5) その他

(6) 次回会議の開催と今後の日程について

第6回西部地域協議会 平成22年9月24日(金)

第7回西部地域協議会 平成22年10月28日(木)

4 報告事項等

5 閉 会